

部
外
秘

昭 和 十 一 年

福 井 縣 統 計 書

第 一 編

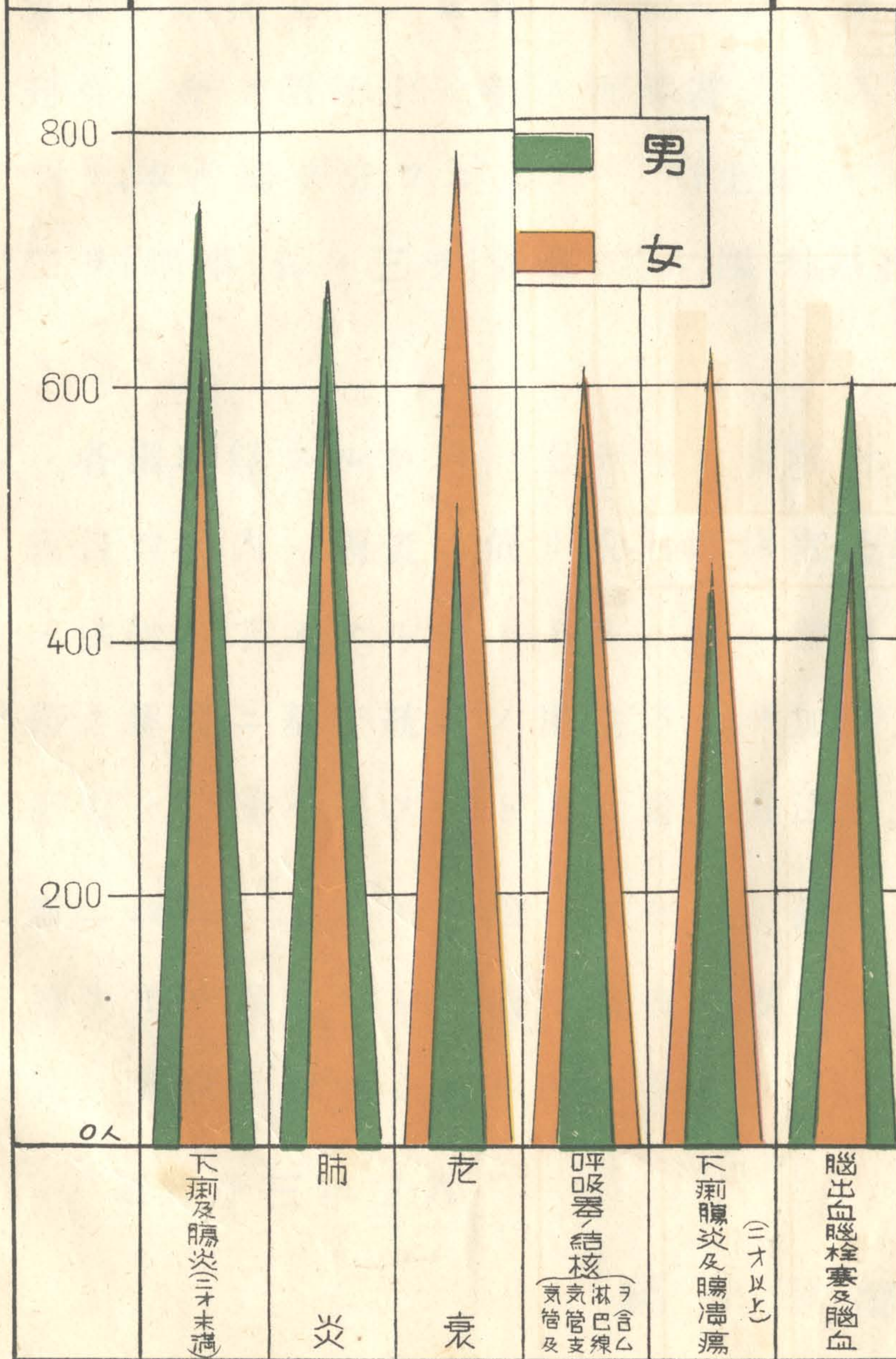
(土 地 及 戶 口 等)

福 井 縣

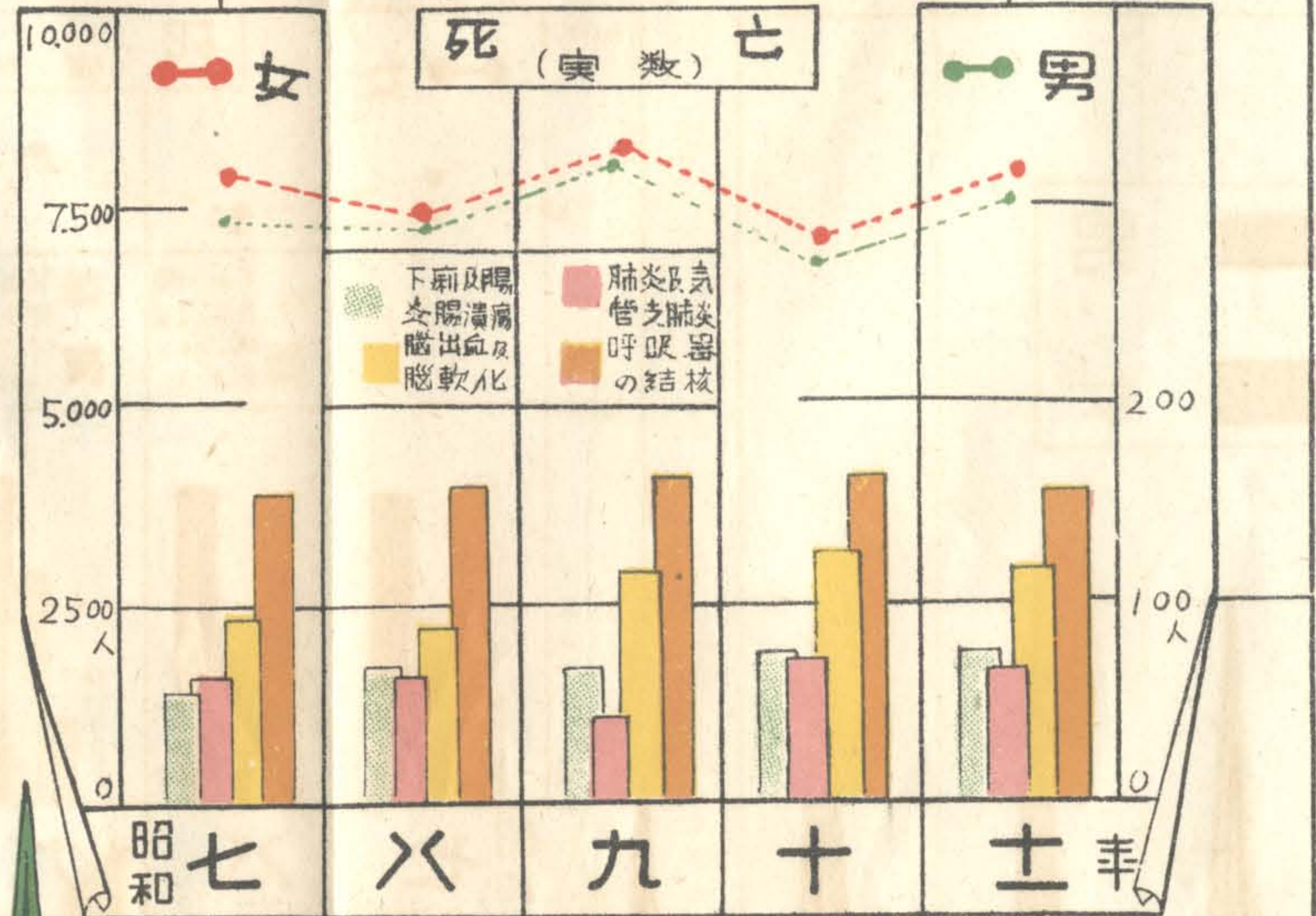
福井縣統計書第一編正誤表

誤		頁數	正
三表標題氏有租地地積 及貸貸價格トアルハ	三	民有租地地積及貸貸 價格	
二五表地震計中福井別候所 トアルハ	一二	福井測候所	
四四表私設鐵道運輸南越鐵 道收入小手荷物中北 村零四四トアルハ	三四	四四	
四四表標題官設鐵道運輸ト アルハ	三五	私設鐵道運輸	
四五表標題郵便トアルハ	三七	郵便	
六六表各宗派別寺院臨濟宗 總數中遠數二トアル ハ	四六	二二	

病類別死亡 (昭和十一年)



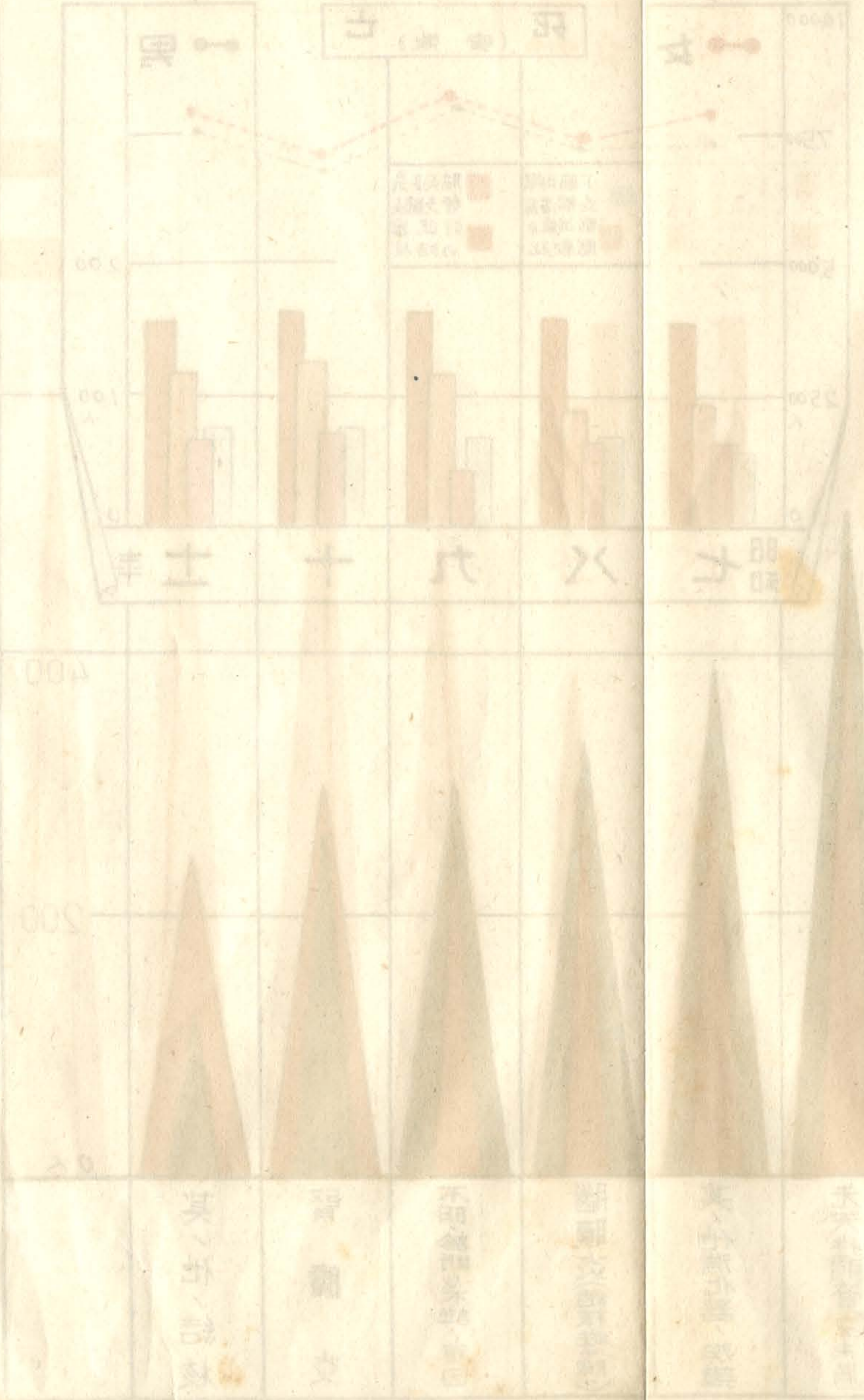
死亡最近五ヶ年比較



臺灣銀行發行券之種類



銀行發行券之種類



緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムガ爲毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和十一年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應ゼシムル所アラムトス。

昭和十三年三月

福井縣總務部

昭和十一年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和十一年又ハ昭和十一年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又己ムヲ得ザルモノハ昭和十年若ハ昭和十年度以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一暦年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同ウシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「……」一位ニ滿タサルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和十一年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說	1
土 地	
1 土地總段別	4
2 官有地	4
3 民有有租地地積及貸賃價格	4
4 民有無租地	5
5 年期地地積及貸賃價格	6
氣 象	
6 測候所	6
7 氣壓氣溫及濕度	6
8 平均氣壓	7
9 平均氣溫度	7
10 平均濕度	7
11 平均曇量	8
12 降水日數及降水量	8
13 降雪日數及期節	8
14 快晴日數	9
15 曇天日數	9
16 暴風日數	9
17 結霜日數	10
18 最多風方位	10
19 風ノ速度	10
20 風ノ平均速度	11
21 沿海及河川流域雨量	11
22 地方暴風兩信號所	12
23 暴風雨標位置	12
24 測候用無線電信機	12
25 地震計	12
26 地震計ニ現ハレクル震動	13
戶 口	
27 市町村別面積	13
28 市郡別人口	14
29 市町村別人口	15
30 推計人口	19
31 本籍人口及現在人口並現在戶數	19
32 人口階級別市町村數及人口	19
33 人口動態總覽(現住地別)	20

34 夫妻各自ノ年齡階級及婚姻前 ニ於ケル稼事身分別婚姻	20
35 夫妻相互ノ年齡階級別婚姻	20
36 夫妻相互ノ婚姻前ニ於ケル稼事身分別婚姻	20
37 夫妻相互ノ年齡階級別離婚	21
38 月別出生死亡及死産	21
39 原因及年齡階級別死亡(實數)	22
40 原因及職業別死亡(實數)	27

交通及通信

41 官設鐵道線路及敷地	31
42 官設鐵道運輸	32
43 私設鐵道	33
44 私設鐵道運輸	33
45 郵 便	37
46 電 報	38
47 電信線路及線條	38
48 電話加入者數	39
49 市内電話線路及線條	39
50 市外電話線路及線條	40
51 電話料收入	40
52 諸 車	40
53 海岸延長及港灣	41
54 港灣ノ狀況	41
55 燈 臺	41
56 浮 標	41
57 船 舶	42
58 港灣入港船舶ノ隻數及噸數	42
59 敦賀浦益斯德間汽船乘客人員	43

土 功

60 水害員數	44
61 水害損失價額	44
62 工事別土木費決算	44
63 工種別土木費決算	44

社 寺 及 宗 教

64 神社及神職	45
65 寺院及僧侶	45
66 各宗派別寺院	46

兵 事

67 壯丁教育程度種別	46
68 壯丁体格檢査	47
69 壯丁身長及体重最高最低	47
70 海軍志願兵	47
71 日本赤十字社員及年釀金	48
72 愛國婦人會	48

議 會

73 貴族院議員多額納稅議員互選者	49
74 衆議院議員選舉	51
75 縣會議員選舉	52
76 縣會議員選舉無效投票	53
77 縣會及縣參事會	53
78 市會議員選舉	53
79 市會及市參事會	54
80 町村會	54

官 公 吏

81 縣廳各部分課	54
82 休職官吏吏員職員	54
83 縣職員(課別)	55
84 市吏員	56
85 町村吏員	57

財 政

86 縣市町村水利土功組合歲入歲出	58
87 直接稅負擔(決算)	58
88 國 稅	59
89 地 租	60
90 所得稅	60
91 家督相續稅	62
92 遺產相續稅	62
93 第三種所得稅種類別決定額	62
94 織物消費稅	64
95 營業收益稅	64
96 酒造稅	66
97 國稅滯納人員及金額	66
98 租稅外國庫收入	66
99 國庫支出縣經費	68
100 縣歲入	70
101 縣歲出	70
102 縣 稅	72
103 縣稅滯納處分	73
104 特別會計ニ關スル縣歲入歲出	74
105 福井市歲入	74
106 福井市歲出	75

107 福井市稅	76
108 敦賀市歲入	76
109 敦賀市歲出	76
110 敦賀市稅	76
111 福井市瓦斯事業費歲入	76
112 福井市瓦斯事業費歲出	77
113 福井市水道事業費歲入	77
114 福井市水道事業費歲出	78
115 町村歲入	78
116 町村歲出	80
117 町村稅	82
118 普通水利組合歲入	92
119 普通水利組合歲出	93
120 水害豫防組合歲入	94
121 水害豫防組合歲出	94
122 縣有財產ノ一	85
123 縣有財產ノ二	86
124 縣有財產ノ三	86
125 福井市基本財產	86
126 町村基本財產	87

其 他

127 篤行奇特者	87
128 瓦 斯	87
129 瓦斯製造高及消費高	87
130 瓦斯火口數及料金	88
131 令達公布件數	88
132 收受發送文書件數	88

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路二晝夜ヲ隔テテ遠ク浦鹽ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一平盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、鶴帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ケ嶽、慈ヶ嶽、淨法寺、丈艸ノ諸山ト爲リ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ聳ユ一千九百六十二米白山火山脈ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蜷屈セル一脈アリテ國見、鷹巣、越路ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激浪岩ヲ嘯ムノ地多ク北端餘賀盡クル所僅ニ砂岳ヲ形成ス。

河川ハ概ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千尺ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流レルニ及ビテ流域一帯ヲ灌溉シ平地部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐饒ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、八ッ峯西方ニ青葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ尠ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ハ屈曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚ダ多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雜極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來斬厩、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ク地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ裏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千二百六十四方軒餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位ニシテ山梨縣ニ比シ狹ク富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レドモ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積尠シ

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬九千八百九十三段歩、内官有地

五千四百六十二町六段、民有地二十三萬三千六百二十六町七段ナリ。

民有有租地ハ十八萬五千二百二十三町二段ニシテ民有地ノ約八割ニ當リ民有無租地及年期地ハ四萬八千四百三町五段歩ナリ。官有地ハ山林四千七百四十四町三段、公私立學校及官公署敷地七百十八町三段ナリ。無租地ハ保安林四萬二千五百七十二町四段、社寺地百五十三町九段、公私立學校及諸官署敷地百二十二町五段、墳墓地百八十一町八段、用惡水、溜池、砂防地、井溝、堤塘、道路等ハ千四百五十四町三段、其ノ他ノ土地百二十二町三段ナリ。年期地ハ總テ三千七百九十六町三段アリ。

氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ圍レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラル、傾向ニ在リ尙濕度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ冬季ハ積雪多ク各種産業ニ影響スル處多シ、

昭和十一年中ノ平均濕度ハ福井八一%敦賀七六%ニシテ氣温ノ最高ハ七月ノ福井三七、四度、敦賀三四、三度、最低ハ三月ノ福井零下九、九度、敦賀零下九、六度ナリ平均氣温ハ福井ニアリテハ一三、二度、敦賀ニアリテハ一三、八度ヲ示シタリ。

又降水日數ハ福井ニアリテハ二二日、敦賀ニアリテハ二二六日ニシテ雨天ハ殆ンド一年中ノ三分ノ二ヲ占ム之ヲ月別ニ見レバ福井ニアリテハ一月ノ三十一日、敦賀ニアリテハ同月ノ二十九日最モ多ク福井ノ六月及敦賀ノ九月ノ九日ヲ最少トス。

降水量ハ福井ノ一月及四月、敦賀ノ一月ハ何レモ三百耗以上ニ達シ一年間ヲ通ズレバ實ニ二千七百耗以上ニ達ス。

尙同年中ノ降雪期間ハ福井、敦賀共一一六日最深積雪ハ福井ニ在リテハ三尺八寸五分、敦賀ニ在リテハ四尺四寸一分ヲ示セリ。快晴日數ハ福井三十一日、敦賀二十日、曇天福井一八五日、敦賀一九六日、暴風日數福井五日、敦賀三十七日、結霜日數福井五十一日、敦賀十八日等ナリ。

戶 口

世 帯 及 人 口

昭和十年十月一日現在(國勢調査)本縣一市一郡ノ世帯總數ハ十三萬三千五百三十四、總人口六十四萬六千六百五十九人ナリ。總人口中男三十一萬六千四百二十四人、女三十三萬二千三百三十五人ニシテ女百人ニ付九十六人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口六千九百二十五萬四千四百四十八人ニ比較スレバ0.93%ニ該リ府縣中第四十三位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ昭和五年ノ六十一萬八千四百四十四人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬八千五百五十五人4.6%ノ増加ニシテ人口減少ヲ示シタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ比スレバ著シキ人口増加ト言フベキモ全國平均増加割合7.5%ニハ猶遠ク及バズ。

人口ノ分布

次=人口ノ縣内分布ヲ見ル=七萬五千二百七十三人(11.6%)ハ福井市ニ其ノ他ノ郡部ニ在リ。各郡中人口ノ最モ多キハ坂井郡ノ十萬三千二百一十一人(15.5%)ニシテ大野郡七萬九千八百五十一人(12.3%)今立郡ノ六萬三千三百七十七人(9.8%)丹生郡ノ五萬八千四百七十七人(9.0%)吉田郡四萬九千四百二十一人(7.6%)之ニ亞ギ大飯郡ノ一萬七千五百六十人(2.7%)最モ少シ。

市郡ノ人口増減ヲ檢スル=大正十四年乃至昭和五年ニ於テ丹生及大飯ノ二郡、昭和五年乃至昭和十年ニ於テ丹生、三方、遠敷及大飯ノ四郡ノ減少シタルヲ除ケバ他ハ何レモ兩期ヲ通シ其ノ人口増加シタリ。

昭和五年乃至昭和十年ノ五箇年ニ於ケル人口増加ノ最モ大ナルハ福井市ノ八千七百五人ニシテ、吉田郡ノ七千八十四人、足羽郡ノ六千五百九十一人、大野郡ノ二千六百六十人、今立郡二千五百六十五人、敦賀郡ノ二千七百七十八人順次之ニ亞グ。然レドモ之ヲ増加割合ヨリ見ルトキハ足羽郡ノ17.3%最モ高ク以下吉田郡ノ16.7%福井市13.1%敦賀郡ノ5.1%今立郡4.2%大野郡ノ3.5%等ノ順序トス。

人口ノ密度

本縣ノ總面積四千二百六十四、四八方料ヲ以テ總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ除ストキハ一方料當百五十二人ト爲リ全國平均百八十一人ヨリ稍低シ市郡ノ人口密度ヲ檢スル=福井市ハ一萬五千四百五十六人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田郡三百五十五人最モ高ク、足羽郡ノ二百八十七人、坂井郡ノ二百四十三人、敦賀郡ノ百八十八人、今立郡ノ百七十二人、丹生郡ノ百六十八人順次之ニ亞ギ大野郡ノ六十二人最モ低シ。

人口動態

昭和十一年中ノ婚姻ハ六千八百七十七件、離婚五百五十七件ニシテ出生ハ男一萬五百二十九人、女一萬七十七人計二萬六千六百六人ニ達シ男ハ女ヨリモ四百五十二人多ク生産シタリ。同年中ニ死亡シタル者ハ男七千六百七十一人、女七千八百九人計一萬五千四百八十人ナルガ故ニ出生死亡差ハ五千二百六十六人ノ自然増加トナル、尙最近十箇年間ニ於ケル平均五千五百六十六人餘ノ増加ヲ示ス。

原因別死亡

昭和十年中ニ於ケル總死亡者一萬五千四百八十人ニシテ之ヲ原因別ニ示セバ最高ヲ占ムルハ三歳未満者ノ下痢及腸炎千三百七十三人(八八八七分)之ニ亞グハ肺炎千三百一人(八四人〇分)老衰千二百八十六人(八三人一分)呼吸器ノ結核千七百七十三人(氣管及氣管支ノ淋巴線ヲ含ム)七五八八分、下痢肺炎及癰疽(二歳以上)千七十八人(六九人六分)腦出血脈栓塞及脈血栓千七十六人(六九人六分)先天性弱質(一歳未満)九百九十二人(六四人一分)其他消化器ノ疾患七百十五人(四六人二分)膿膜炎(結核性ヲ除ク)六百三十七人(四一人一分)不明ノ診斷及不詳ノ原因五百八十八人(三八人〇分)ハ其ノ最モ著シキモノナリ。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道ニ路線、府縣道二百八路線此ノ總延長百九十萬四千六百三十三米ニシテ面積ニ比シ少カラサルモ山地割合ニ多ク關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ或ハ幅員狭少ト爲レルヲ以テ毎年之ガ改良ヲ爲シツツアリ。

鐵 道

鐵道ハ延長三百三十七軒ニ達シ、北陸本線、小濱線、三國線ノ外ニ私設鐵道七線アリ、更ニ目下建設中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見ルトキハ交通上裨益スル所大ナルベシ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和十一年末本縣ノ神社總數ハ千六百七十二社、神職百九十四人アリ。内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十五、郷社四十八、村社千二百七十二、無格者三百二十一社等アリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和十一年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百七十二、僧侶千六百十四人ニ達シ寺院一ニ付世帯數八十ノ割合ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗八百六十八、最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞グハ曹洞宗二百七十一、日蓮宗百四十五、天台宗百一十一、淨土宗百四、臨濟宗七十九、眞言宗六十二、時宗二十、黃蘗二、等ナリ。

兵 事

昭和十一年ノ壯丁体格検査人員ハ六千六百六十六人、丙甲種千九百四人ニシテ總員ノ三割一分ニ當リ第一乙種五百四十三人(九分)第二乙種千三百三人(二割一分)ト爲ス。又丙種二千五十五人、丁種三百五十四人、戊種七人此等ヲ併セテ三割九分ニ當ル。教育程度ハ高等學校卒業以上及同等ノ者二百三十五人、中學校卒業及同等ノ者七百二十三人、高等小學校卒業及同等ノ者三千百五人、尋常小學校卒業及同等ノ者千六百五十三人、尋常小學校卒業及不就學者四百五十人等ナリ又検査人員中身長ノ最高ハ一米七九七、最低一米三五五、体重ハ最重八〇磅九〇、最輕二八磅五五ナリトス。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十二年八月一日現在ニ於ケル本縣職員ハ千五百九十五人ニシテ其ノ俸給九十九萬七千六百八十一圓トナル。内勅任一人、奏任二十一人、同待遇者四十七人、列任百七十七人、同待遇者七百二十六人、縣吏員三百一人、雇員二百五十七人、囑託七十二等ナリ。

市 吏 員

昭和十一年末現在ニ於ケル市長、助役、收入役各一人、主事三人、技師二人、書記六十七人、技手十六人、事務雇四十一人、其ノ他一人總數百三十二人ニシテ市長ヲ除ク此ノ俸給八萬五千六百五十三圓トナルモ此ノ外名譽職ニ屬スル市長一人、常設委員五人、區長四十九人、區長代理四十九人、其ノ他十

人ヲ併セ七百十四人アリ。

町 村 吏 員

昭和十一年末現在ニ於テ町長百六十二人、助役百六十人、
 収入役百五十三人、區長百九十八人、同代理者百八十八人、
 書記六百九十三人、事務雇四十九人、書記補三十六人、
 技衛員四十三人、常設委員九百十四人、其ノ他四人總數六千
 八十一人トナリ名譽職者ノ報酬及有給吏員ノ給料年額ヲ合ス
 ルトキハ四十九萬一千二百五圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ二十八萬
 三千餘圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結
 果トニ依ル等漸ク經費ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年ニ至リテ
 約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍
 川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々經費ヲ高嵩シタリ。茲
 ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルノ必要ニ迫リ明治三十五年及同
 三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ勵行シタルモ戰後
 ノ經營ノ時運ノ進歩ニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來タシ至レリ。
 加フニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然事業ノ増加ヲ來タ
 シ經費ハ愈膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ体シテ
 大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通ジテ極力整理緊縮ヲ敢
 行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣
 民ノ福利増進上已ムテ得ザルモノ等アルタメ昭和十一年度ノ
 決算ハ七百三十五萬二千五百七十二圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ
 前年度ノ決算ニ比スレバ七十三萬六千八百八圓ヲ増シ更ニ十
 年前ノ昭和元年度決算五百三十萬二千九百五十圓ニ比シ二百
 四萬九千六百二十二圓ノ増嵩ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十一年度ニ於テ市費七十九萬
 六千七百五十五圓、町村費四百二十萬二千九百五十圓（何レ
 モ豫算）ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年ニ
 比スレバ市町村費ヲ通ジテ實ニ二十五倍餘ノ多キニ達セリ。縣
 ハ不斷銳意緊縮ノ方針ヲ以テ之ヲ卒フル所アリシモ社會ノ進
 展ニ伴ヒ教育、土木、產業其ノ他各般ノ施設ニ迫ラレ自然經
 費ノ膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十一年度本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅
 二百三十萬三千三百五十一圓、縣稅二百九十三萬九百一圓、市
 町村稅二百五十九萬四千八百三十七圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ
 觀ルトキハ直接國稅十七圓三十九錢、縣稅二十二圓十四錢、
 市町村稅十九圓六十錢トナル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣闊水極メテ
 深ク且ツ暗礁砂洲等ノ障害物ナキ爲大船巨舶ト雖モ巡航自在
 且堅固安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬ヲ投ジテ金ヶ崎
 波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次テ明治二十九

年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セララルヤ
 其ノ一ニモ亦之ヲ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スル
 ニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續
 事業トシテ工費八十万圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長
 棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮標ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第
 二期修築工事トシテ大正十年度ヨリ直轄工事ヲ起シ爾來十
 箇年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費トヲ投フテ銳意之ガ修
 築ヲ行ヒ昭和七年三月其ノ竣工ヲ見ルニ至レリ。次ニ歐洲大
 戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動
 ニ因リ漸次衰退ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而
 シテ昭和十一年中當港ヨリノ移出ハ六萬三千三百九噸、價額
 三百八十二萬四百七十八圓、移入ハ三十萬九千二百四噸此ノ
 價額千四百五十四萬七千五百六十九圓ニシテ移出ノ主ナルモ
 ノハ蔬菜及果實、雜貨、製製品並ニ布帛及同製品トス果實及
 布帛製品ハ主トシテ本縣產ノモノノミニシテ雜貨ハ京阪地方
 ヨリ何レモ鐵道ニテ輸送シ來リ北海道（函館、小樽）北鮮（
 元山、城津、清津、雄基）露領亞細亞、中華民國及滿洲方面
 ニ、雜貨及製製品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ產スルモノ
 ト縣内產トヲ併セ北海道、北鮮地方ニ移出セララル。移入ノ主
 ナルモノノ内石炭ハ北海道、九州地方ヨリ移入シ多ク之ヲ鐵
 道用炭トナシ其ノ他ハ本縣及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消費
 スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚鱈類ハ北海道、朝鮮方面ヨ
 リ移入シ縣内ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線ニ亙リ移出
 セラルル狀況ニ在リ。